

JANNETこれまでの研修会・研究会一覧

2016.6.2 現在

研修会

開催年	月日・曜日	場 所	テーマ	参加人数 (含事務局)	講師氏名(敬称略)	所 属	コメント
2001年	1月28日(日)	日本理学療法士会館	CBRキャパシティ ビルディング セミナー ー地域参加型リハビリテーションの理解と実践ー	35名	渡邊 雅行	日本CBRネットワーク	研究会では時間が限られているので、一日かけてのセミナー・ワークショップでは、CBRについてじっくり話し合うことができた。
2002年	1月20日(日)	戸山サンライズ	貧困と参加:「力の剥奪(deprivation)」から「非排除型(inclusive)」開発へ	26名	穂坂 光彦	日本福祉大学 経営学部 経営開発学科	開発を学問的に学びたいというニーズには応えられた企画だったと言えるのでは。
2003年	8月27日(金)	早稲田大学 国際会議場	CBR(地域に根ざしたリハビリテーション)ー現在の傾向および将来への試みに関する議論	50名	マヤ・トーマス		
2005年	3月6日(日)	戸山サンライズ	精神障害と国際協力	40名	蟻塚 亮二	精神科医	
2005年	6月26日(日)	戸山サンライズ	ネパールの農村に暮らして	50名	垣見 一雅	OKバジ	
2008年	3月1日(土)ー5日(水)	バングラデシュ	「開発における障害」現地研修会	12名	ノーマン・カーン等	CDD(開発における障害センター)	2007年度
2009年	3月10日(火)11日(水)	福島県泉崎村	地域おこしと障害者支援	7名	熊田 芳江	こころん	WHOチャパル・カスナビス氏、インドネシアCBR 開発研修センターマラトモ氏同行
2010年	1月16日(土)ー23日(土)	インド	バンガロールにおけるCBR	5名	ラマ・チャンドル	Mobility India, BasicNeeds	マヤ・トーマス氏に当初企画への助言をいただいた。

研究会

開催年	月日・曜日	場 所	テーマ	参加人数 (含事務局)	講師氏名(敬称略)	所 属	コメント
1994年	6月20日(月)	早稲田奉仕園 セミナーハウス	カンボジアの現状と協力活動 ①カンボジア農村の現状と課題ー農業開発ワーカーに聞く ②カンボジアにおける車いす関連の活動について ③カンボジアの義肢に関するNGOの動き		サリン・キム	アジア保健研修所	第1日目は国別報告でカンボジアをとりあげた。豊かな会員の経験を共有した。
					ホン・アン		
					小松 博史 澤村 誠志		
1995年	1月17日(火)	戸山サンライズ	インドネシアでの活動①「インドネシアCBR研修事業」 ②ソロにおけるCBR創業者ワークショップへの協力 ③日本理学療法士協会の活動 ④ソロ・リハビリテーションセンターへの協力を中心に		星野 侃司	こども未来財団	国別報告2日目は会員団体の経験の多いインドネシアをとりあげた。会員の経験の共有。
					津山 直一	日本障害者リハビリテーション協会	
					久野 研二	日本理学療法士協会	
					松井 亮輔	日本障害者雇用促進協会	
1995年	6月8日(木)	早稲田奉仕園 セミナーハウス	CBRについて:①CBR研究ー歴史と今日的課題、 ②CBRー概念と実践	35名	小林 明子	国際CBR研究会	CBRの概念をきちんと学ぶことを目的にしたテーマ。
					中西 由起子	アジア・ディスアビリティ・インスティテート	
1995年	12月5日(火)	戸山サンライズ	職業分野におけるCBRーインドネシアの体験から フィリピン・ネグロス島におけるCBR	31名	丹羽 勇	元ILO	CBRの事例から学ぶ。
					中西 由起子	アジア・ディスアビリティ・インスティテート	
1996年	5月27日(月)	戸山サンライズ	NPO法案の概要・今後の動き 民間団体にとってのNPO法案の役割	24名	松原 明	市民活動を支える制度をつくる会	タイムリーな話題であったNPO法案をとりあげた。
					中西 正司	ヒューマンケア協会	
	12月16日(月)	戸山サンライズ	「障害分野における研修活動の『評価』を考える」 加盟団体よりの事例報告 ①アジア・ディスアビリティ・インスティテート ②日本キリスト教奉仕団 アガペ身体障害者作業センター ③日本理学療法士協会 ④日本精神薄弱者福祉連盟	34名	池住 義憲	アジア保健研修所	研修を実施している会員が多く、共通の課題をかかえていることから、「研修の評価」をとりあげた。
					中西 由起子	アジア・ディスアビリティ・インスティテート	
飯島 蘭子	日本キリスト教奉仕団 アガペ身体障害者作業センター						
小林 義文	日本理学療法士協会						
沼田 千好子	日本精神薄弱者福祉連盟 (現日本知的障害福祉連盟)						

開催年	月日・曜日	場 所	テーマ	参加人数 (含事務局)	講師氏名(敬称略)	所 属	コメント
1997年	6月3日(日)	戸山サンライズ	「障害分野における研修活動の『評価』を考えるPART II」-ラオスでの住民参加型農村開発における『評価』の試み	22名	磯田 厚子	日本国際ボランティアセンター JVC	「研修の評価」が好評だったことから、「評価」の第2弾。
	12月11日(木)	戸山サンライズ	報告: JICAの国民参加型協力推進調査「障害者の国際協力の参加」についての報告-概要とその後の動きについて	19名	岩波 和俊	JICA東京国際研修センター	JICAの動きをとらえ、国際協力のあり方をテーマとした。
			報告: 全日本ろうあ連盟の実施する国際協力事業について		大槻 芳子	全日本ろうあ連盟	
			報告: 日本点字図書館の実施する国際協力事業について		田中 徹二	日本点字図書館	
報告と総括: 国立リハにおける国際協力事業の実施について	植村 英晴	国立リハセンター国際協力室(現: 日本社会事業大学社会事業研究所)					
1998年	6月15日(月)	戸山サンライズ	「国際障害分類(ICIDH)東京改正会議」について	25名	佐藤 久夫	日本社会事業大学	タイムリーな話題であるICIDHをとりあげた。
	11月17日(火)	戸山サンライズ	(5周年記念セミナー)「21世紀におけるCBRと国際協力」		デビット・ワーナー		
1999年	6月7日(月)	戸山サンライズ	今後の障害分野における協力事業の展開-助成のあり方をめぐって		松井 亮輔	JANNET会長(北星学園大学)	協力のあり方。
2000年	1月17日(月)	戸山サンライズ	報告: よりよいNPO活動をめざして		松井 亮輔	JANNET会長(北星学園大学)	再度NPO法についてとりあげた。JANNETがNPO法人格をとるかどうかも考えることを目的とした。
			講演: NPO法設立後のNPO活動		松原 明	市民活動を支える制度をつくる会	
報告: JICAのNGO支援に関する2つの新しい援助計画(開発福祉支援事業: 開発パートナー事業)について			山内 康弘		JICA国内事業部国内連携課		
6月5日(月)	戸山サンライズ	IT革命は社会をどう変えるか。-国際協力活動への影響-		河村 宏	日本障害者リハビリテーション協会情報センター長	ホットな話題として、ICTをとりあげた。	
2001年	1月9日(火)	戸山サンライズ	開発と評価	15名	源 由理子	アユス仏教国際協力ネットワーク	CBRへの理解から開発への理解へと進展。
	6月25日(月)	戸山サンライズ	ICIDH改訂について	149名	上田 敏	WHO国際障害分類日本協力センター 日本障害者リハビリテーション協会	タイムリーな話題で、参加者数過去最高。
2002年	5月14日	戸山サンライズ	東チモールの障害者の現状を聞く会	20名	長田 こずえ	国連ESCWA(西アジア経済社会委員会)	
	6月2日(日)	戸山サンライズ	CBR(地域に根ざしたリハビリテーション)における主体的参加型村落評価法(PRA)の実践	21名	大澤 諭樹彦	秋田大学 医療技術短期大学部 理学療法科	再びCBRへ立ちかえり、PRAをとりあげた。
2003年	2月15(土)16日(日)	戸山サンライズ	ワークショップ「CBRの国際的動向」	56名	マルコム・ピート、 ローナ・ジーン・エドモンド	カナダ クイーンズ大学 教授	
	3月8日(土)	JICA東京国際研修センター(TIC)	JANNET幹部合宿: 設立からこれまでの発展を振り返り、課題を認識し、今後どう発展させるかを話合った。	11名	池住義憲、山崎真由美		
	6月8日(日)	中野サンプラザ	「戦争と障害」-会員団体によるアフガニスタン、カンボジアにおける地雷除去や地雷撲滅キャンペーンについての報告-	30名	紺野 誠二	難民を助ける会	
					加藤 美千代	JCBL	
北川 泰弘	プノンペンの会						
10月25日(土)	戸山サンライズ	プロヒモCBR見学報告		田口 順子	日本理学療法士協会		
2004年	1月18日(日)	中野サンプラザ	世界の活動報告	40名	高松 美穂	コソボからの報告	
					吉田 美穂	フィリピンからの報告	
					沼田 千好子	エジプトからの報告	
					上野 悦子	高山市のバリアフリー観光の取り組み	
	6月6日(日)	戸山サンライズ	国際障害NGOの目指すこと ~障害者の権利条約制定に向けて~	34名	中西 由起子	アジア・ディスアビリティ・インスティテート(DPI)	
小椋 武男					全日本ろうあ連盟(世界ろう連盟)		
松友 了					全日本手をつなぐ育成会(国際育成会連盟)		
指田 忠司					日本盲人会連合(世界盲人連合)		
松井 亮輔					日本障害者リハビリテーション協会 (国際リハビリテーション協会)		
戸山サンライズ	ネパールにおける障害者のエンパワメントの現状と課題	15名	渡邊 雅行		ネパールから来日した渡邊さんの関係者の話		

開催年	月日・曜日	場 所	テーマ	参加人数 (含事務局)	講師氏名(敬称略)	所 属	コメント
2012年	2月29日(水)	戸山サンライズ	スリランカのCBR -CBRマトリックスで見てみよう！-	36名	加藤 尚子 尻無浜 博幸 鈴木 直也	作業療法士 松本大学観光ホスピタリティ学科准教授 NPO起業支援ネット副代表	「スリランカでのCBR報告」 「CBRと日本の地域福祉」に関する対話 同上
	8月25日(金)	戸山サンライズ	第一回コミュニティにおけるインクルーシブ開発(CBID)検討会 『日本から世界へ～日本の地域実践例をCBRマトリックスで読み解きます～』	21名	上野 悦子 河野 眞 今西 浩明	日本障害者リハビリテーション協会 日本作業療法士協会 ワールド・ビジョン・ジャパン	趣旨説明とこれまでの流れ ガイドライン要点共有(2冊目から7冊目まで) 同上
	11月5日(月)		インドの障害と開発の活動 -ベンガル・レディさんの講演会と懇談- (講師の都合により中止)				
	12月8日(土)	戸山サンライズ	第二回コミュニティにおけるインクルーシブ開発(CBID*)検討会 「日本から世界へ～日本の地域実践例をCBRマトリックスで読み解きます～」	15名	上野 悦子 河村 康二 河野 眞 伊藤 智典 今西 浩明 尻無浜 博幸	日本障害者リハビリテーション協会 日本作業療法士協会 日本理学療法士協会 ワールド・ビジョン・ジャパン 松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科	概要説明と前研究会内容の振り返り CBRガイドラインから「保健」コンポーネントの要点発表 CBRガイドラインから「教育」コンポーネントの要点発表 CBR事例発表(長野県松本市)
2013年	2月25日(月)	戸山サンライズ	CBRガイドライン検討会	10名			
	6月16日(日)	国立ハンセン病療養所多磨全生園中央集会所	「隔離」から「共生」へ ハンセン病療養所の「内」と「外」から社会を変える 【IDEA ジャパン・障害分野NGO連絡会(JANNET)・笹川記念保健協力財団 共催セミナー】	25名	鈴木 禎一 森元 美代治 佐久間 建 高久 洋子 村上 絢子	ハンセン病首都圏市民の会代表 IDEAジャパン理事長 都立武蔵台学園府中分教室ひだまり学級教諭 ハート相談センター元職員 ライター、IDEAジャパン事務局長	
	7月10日(水)	戸山サンライズ	「障害インクルーシブ開発、バングラデシュでの進展」～障害のある人の暮らしやコミュニティはどう変わったのか？～	24名	ナズムル・バリ	CDD(障害と開発センター)所長	障害インクルーシブ開発 -CDDの活動-
	10月27日(日)	JICA地球ひろば	ポストMDGsと障害で話題の障害インクルーシブな開発とは？	65名	アルピナ・シャンカー 渡辺 ゆりか 鈴木 直也 河野 眞	モビリティ・インディア所長 草の根ささえあいプロジェクト代表理事 NPO法人起業支援ネット 日本作業療法士協会	インドの実践 日本の実践 CBID概要説明 CBID概要説明
2014年	11月4日(火)	戸山サンライズ	マヤ・トーマスさん講演会 - CBIDの実践、インパクトの指標への考察等 -	34名	マヤ・トーマス	「障害・CBR・インクルーシブ開発」ジャーナル編集長	CBRの実践、インパクトの評価への考察等
2015年	2月27日(金)	戸山サンライズ	ここまで来た、防災への障害のインクルージョン！ - 国連防災世界会議直前、新しい世界防災の枠組みと開発的視点での課題 -	34名	堀内 葵	JANIC政策提言グループ・JCC2015事務局長	国連防災世界会議およびポストSDGsへのCSOの取り組み
					可児 さえ	マルチーザ・インターナショナル日本代表	障害インクルーシブな防災: 持続可能な地域開発の中での役割

開催年	月日・曜日	場 所	テーマ	参加人数 (含事務局)	講師氏名(敬称略)	所 属	コメント
2015年	9月1日(火)～3日(木)	京王プラザホテル	第3回アジア太平洋CBR会議にて コミュニティベースのインクルーシブ開発(CBID)を通し ての貧困削減と持続可能な開発目標(SDGs)	—	—	—	46の国と地域から551名参加。東京宣言採択。CBID事例集(アジア太平洋及び日本国内)、プログラムは全体会5、分科会13、サイドイベント3、展示、ポスターセッション。期間中の参加者からの聞き取りおよび、JANNETが参加者へのアンケート結果から会議は概ね成功したと言える。年度内研究会は、本CBR会議共催にかえることとした。